



ぐんま 県球連



2011.6.30

たより No.10

群馬県野球連盟 前橋市平和町一丁目4-7

普及委員会製作

平成23年度定時総会 開催

～平成23年2月19日(土) 渋川市内 ホテル松本楼



議長 根本 豊氏

会長より議長に、太田支部常任理事根本 豊氏が指名され、議事運営がなされ、報告事項・議決事項・その他が審議され、原案通り、確認・承認された。

報告事項：

- 群馬県体育協会賞表彰候補者の推薦について
スポーツ功労者賞 副理事長・審判部長 野澤晋也氏
優秀選手賞 第65回国民体育大会軟式野球競技第5位
監督・選手16名(高崎市役所14名、太田市役所2名)
ジュニアスポーツ奨励賞 第40回関東少年(中学)軟式野球大会優勝
SKトライアンフ(渋川北群馬中体連)選手20名
- 強化チームの指定について
(平成23年度)高崎市役所、太田市役所、サンデン、群馬銀行
- 少年部・学童部投手の投球制限について(後記)

議決事項：

- 平成23・24年度役員選任について(後記)

役員改選では、会長、副会長、理事長及び監事が推薦委員会より推薦され承認された。

- 会長 今井伸吉(利根沼田)
副会長 金田年弘(安中) 渡邊 弘(桐生) 堀口利男(高崎) 清水靖夫(渋川北群馬) 嶋田 均(上毛新聞)
理事長 小林一隆(桐生)
監事 掛川俊明(伊勢崎) 清水 清(邑楽) 小林 徹(みどり)
副理事長 萩原賢一(渋川北群馬) 渋谷 栄(安中) 國裕道夫(前橋) 野澤晋也(審判部)
常任理事 福田英二(吾妻) 山田好二(安中) 五十嵐富久志(伊勢崎) 根本 豊(太田) 山崎 剛(邑楽) 窪田
榮(桐生) 狩野弘之(渋川北群馬) 高地康男(高崎) 荒井正一(館林) 和南城健二(利根沼田) 細山周作
(富岡) 飯塚章一(藤岡) 滝澤正好(前橋) 齊藤裕志(みどり)
(会長氏名) 小暮 修 金澤公一 久我敏雅 大島和幸 飯塚 実(審判部) 尾池国雄(審判部) 笹治禮子
(事務局長) 清水義和(上毛新聞)
- 審判部 部長 野澤晋也(前橋)
副部長 飯塚 実(館林) 尾池国雄(高崎) 酒井明男(前橋)
- 委員会 総務委員会 (委員長) 渋谷 栄 (副委員長) 滝澤正好 高橋 博
(委員) 久米正昭 池ノ谷正寛 小暮 修 野澤晋也 萩原賢一 國裕道夫 久我敏雅
- 競技委員会 (委員長) 萩原賢一 (副委員長) 金澤公一 往住洋一
(委員) 飯塚 実 尾池国雄 大野彦太郎 笹治禮子 宮崎貞夫 田村 勉 茂木一郎 石倉卯佐
巳 蓼沼謙二 飯塚 裕 黒岩泰久 岡部秀夫 黒澤信元 新井和利 植田 暁 高久和也 板垣均
治
- 普及委員会 (委員長) 國裕道夫 (副委員長) 根本 豊
(委員) 狩野弘之 和南城健二 飯塚章一 須永房吉 駒木保夫 酒井明男
- 強化委員会 (委員長) 久我敏雅 (副委員長) 大島和幸
(委員) 岩佐英臣 小坂橋昌行 星野光広 小林秀夫 今井浩光
- 事務局 事務局長 笹治禮子
金澤公一 須藤ふさこ 大野彦太郎 高橋 博 岩佐英臣

新しく会長となった今井伸吉氏は永年利根沼田支部の大黒柱として活躍され、支部の発展と軟式野球の普及に貢献、又県連盟でも常任理事、副理事長など歴任され連盟の隅々まで知り尽くし適任者であることは間違いなく、又本人は、前任者である吉澤前会長の多大な功績を汚すことなく、さらなる発展を心掛けるよう頑張りたいとのこと、挨拶がありました。



新リーダーとなった今井伸吉会長

東日本大震災が発生

3月11日の東日本大震災により多くの死者と多大なる被害が発生しました。亡くなわれた方々のご冥福と被災された人達の一日も早い復興をお祈りいたします。

県内でもその影響等で計画停電等もあり、第36回県選抜少年学童大会・第31回全日本学童県大会の開会式が中止となり、会期中の試合では、参加チームの鳴り物入りの応援等の自粛と、放送、スコアボード(得点・カウント・選手名)の掲示は行いませんでした。

東日本大震災における支援について

(財)全日本軟式野球連盟は、大震災により被災されました方々、地域社会に対し義援金を拠出することと致しました。

当連盟各支部のチーム及び役員・審判員も募金に協力いただき、誠にありがとうございました。

当連盟は、

上毛新聞社扱い(県野球連盟・同14支部(役員・チーム)・同審判部)

全軟連扱い (義援金・100円玉募金)

県体協扱い (義援金)

} へ募金いたしました。

第66回天皇賜杯群馬県大会

日程：平成23年4月16日・23日・30日

会場：渋川市総合公園野球場・伊勢崎市あずまスタジアム・前橋市大胡総合運動公園野球場・富岡市民球場

参加30チームにより、4月16日から3日間、県内4会場で熱戦が展開されて、決勝戦はサンデン(推薦)とナカヨ通信機(前橋)の対戦となり、サンデンの初優勝で大会を終了した。

優勝したサンデンは、天皇賜杯全日本大会(岩手県・9/16~21)・関東選手権大会(山梨県・10/22~23)に出場、県代表として健闘を祈ります。



第66回天皇賜杯群馬県大会優勝 サンデン（伊勢崎）

【全国大会の抱負 野球部 吉野監督】

野球に集中できる環境を与え続けてくれる会社と岩手県民の皆様への感謝の気持ちをグラウンドにてしっかり示し、チーム一丸となって全力で戦います。

本年度初の開会式 ～ 第66回群馬県実業軟式野球大会～

第66回群馬県実業軟式野球大会開会式 5月21日（土） 上毛新聞敷島球場

第66回国民体育大会県予選(A)

高松宮杯第55回全日本大会県予選(B・C)

日本スポーツマスターズ2011県予選(壮年)

日程：平成23年5月21日～6月12日 11日間（県内13会場で実施）

県選抜学童大会・全日本学童県予選大会の開会式が自粛されましたが、第66回群馬県実業軟式野球大会の開会式は、関係団体・連盟役員・参加チーム（119チーム）の協力により予定どおり開催できました事に感謝申し上げます。

優勝したチームの県代表としての健闘を祈ります。

Aクラス 高崎市役所 （高崎）

Bクラス 日本化薬高崎工場 （高崎）

Cクラス H-19 （前橋）

壮年 富士精螺壮年クラブ（伊勢崎）



選手宣誓 高崎市役所主将 高木伸之



平成23年度県実軟Aクラス優勝 高崎市役所野球部(国体関東ブロック大会群馬県代表)

高崎市役所は投手力の高いチームで、高木・青木の2人の先発と抑えを山口に任せて今年の群馬県予選では失点0でした。また、得点力もあり1試合平均5.75点を記録しています。なお、太田市役所の関捕手と田沼内野手が加わり、さらに攻守の補強を図りました。昨年はベスト8でしたが今年は目標をさらに高く、全国優勝を掲げています。まずは厳しい関東ブロック予選を勝ち抜いていきたいと思いをします。

高崎市役所野球部 監督 竹内 章

国民体育大会出場に向けて

昨年に続き群馬県大会を制した高崎市役所は、今大会を通してチーム全体に落ち着きと、選手個々に自信が感じられた。前回大会では全国第5位という成績をおさめた経験が、今大会の随所に生かされ、好結果に繋がったものと思える。

昨年不安のあった守備力においては、多少不安を残すものの、レベルアップされ、投手力においては、青木投手の成長がチーム力向上につながっている。

また、チーム全体で見ると、太田市役所から関捕手・田沼内野手を補強して、守備力攻撃力に厚みを増した。今年はそれ以上に湯浅、高木選手を中心に勢いのあるまとまったチームに仕上がっていると思う。

8月20日に開催の関東ブロック大会では、今の力を十分に発揮することで、群馬県の代表として国体出場は期待できると考えています。頑張ってください。

群馬県野球連盟 強化委員会
委員長 久我 敏雅

日本体育協会公認スポーツ指導者「指導員」養成講習会について

国民がそれぞれのスポーツへの関わり方に応じて「安全で、正しく、楽しいスポーツ」ができるよう、年齢、技能レベルや志向に対比できる指導能力の高い指導者を養成し、軟式野球・スポーツの振興に寄与しようとするものであり、また、平成24年度から国民体育大会の監督は、公認スポーツ指導者「指導員、上級指導員、コーチ、上級コーチ」のいずれかの資格等を有することが義務付けられます。

本連盟普及委員会担当者は、今年度より実施される日本体育協会公認指導者養成講習会として、共通科目35時間 9月～11月NHK学園通信講座および専門科目40時間 10月～11月の集合講習などを受講し資格を取得することができます。

今年度は、天皇賜杯県大会2回戦進出チーム及び推薦チーム（参加者31名）を対象として実施することとしました。全日本軟式野球連盟としては、平成24年度の国民体育大会（岐阜国体）から監督の有資格の義務付けを目標として導入されます。そのため日本体育協会が義務づける25年度までに対応が図られることとなります。

専門科目では整形外科医、全国制覇の監督、群馬ダイヤモンドペガサスの監督、コーチなど豪華な講師陣により基礎理論、実技などの講習が行われ成果が期待されます。

普及委員会としては、今回の指導者養成講座講習会を推進していくこととしています。初めての事業で不安もありますが、野球連盟の本部、事務局、各普及委員との連絡を密にして成功させたいと思います。

来年度以降、継続して公認指導者を養成していくうえでは、クラブチームへの参加要請及び各支部秋の大会などが今後の課題となってくるように思われますので、今年度の成果をよく精査し来年度以降に反映していければより良い養成講習会になるものと思います。

<普及委員一致団結して成功させましょう!>

（普及委員会公認指導者養成講習会担当 和南城健二 記）



“受賞” おめでとうございます

平成22年度の群馬県体育協会賞・スポーツ功労者

野澤氏は現在、副理事長・審判部長として活躍中であり永年の審判として地域スポーツの発展にご尽力された功績が認められての受賞です。



野澤 晋也氏（前橋支部）

青少年の野球障害に対する提言

スポーツを楽しむことは青少年の健全な心身の育成に必要である。野球はわが国におけるもっともなポピュラーなスポーツの一つであるが、骨や関節が成長しつつある年代における不適切な練習が重大な障害を引き起こす事もあるので、その防止のために以下の提言を行う。

- 1) 野球肘の発生は11、12歳がピークである。従って、野球指導者はとくにこの年頃の選手の肘の痛みと動きの制限には注意を払うこと。野球肩の発生は15、16歳がピークであり、肩の痛みと投球フォームの変化に注意を払うこと。
- 2) 野球肘、野球肩の発生頻度は、投手と捕手に圧倒的に高い。従って、各チームには、投手と捕手をそれぞれ2名以上育成しておくのが望ましい。
- 3) 練習日数と時間については、小学生では、週3日以内、1日2時間を超えないこと、中学生・高校生においては、週1日以上以上の休養日をとること。個々の選手の成長、体力と技術に応じた練習量と内容が望ましい。
- 4) 全力投球数は、小学生では1日50球以内、試合を含めて週200球をこえないこと。なお、1日2試合の登板は禁止すべきである。
- 5) 練習前後には十分なウォームアップとクールダウンを行うこと。
- 6) シーズンオフを設け、野球以外のスポーツを楽しむ機会を与えることが望ましい。
- 7) 野球における肘・肩の障害は、将来重度の後遺症を引き起こす可能性があるため、その防止のためには、指導者との密な連携のもとでの専門医による定期的検診が望ましい。

日本臨床スポーツ医学会 学術委員会
委員長 大国 真彦
整形外科専門部会
委員長 渡辺 好博

学童・少年部の投球制限について

- ・ 投手は一人1日1試合しか投げられないこととする（通常7回、特別延長戦の場合10回まで）。ダブルヘッダーの場合は、必ず投手（前の試合に登板したすべての投手）を代えることとし、連投を禁止する。
- ・ 採用時期 平成23年4月以降の各末端支部大会より。



普及委員会の活動及び役割分担

群馬県野球連盟では、クラブ人軟式野球の普及を目的として、クラブ人軟式野球大会を推進し、現在は栃木県代表、群馬県代表による両毛クラブ人軟式野球大会を実施しております。

昭和21年に再開された軟式野球のチーム登録を現在まで見てみますと圧倒的にクラブチームが多く、現状では軟式野球の原点は、クラブチームであるといえるのではないかと思います。

軟式野球の普及を目的とし、軟式野球の原点であるクラブチームの大会をさらに発展させ北関東大会さらには関東大会へと発展することができれば、クラブチームに希望と喜びを与える場を提供することができ、しいては軟式野球人口の増加と活性化につながるものと期待できるのでないかと思います。

現在は、栃木県・群馬県で両毛クラブ人大会（3年間）を実施しておりますが、「北関東地区」、「関東地区」へと発展させることができると考えております。主旨をご理解いただき、ご賛同賜りますれば幸いと存じますのでよろしく願いいたします。

【参考】

同一職場に勤務する者が大会参加人員の三分の二未満のチームは、職域チームでなくクラブチームとなります。チーム名はクラブ名とする。チーム名は、ユニホームの胸マーク以外は日本字（幹事・ひらがな・カタカナ）で表記する。ただし、JT、JR、NTT等企業の名称・略称は、日本字・ローマ字どちらでもよい。

両毛クラブ人軟式野球大会について

平成20年に第1回大会を開催して本年度で第4回を迎えます。軟式野球の原点はクラブ野球にあると思っております。登録チームの大多数がクラブチームであることにその事実を物語っております。本大会を創設するにあたり、クラブ野球の上位大会を位置づけることが重要であると考えました。クラブチームに上位大会への出場機会を与えると同時に希望を抱いていただくことも軟式野球の普及発展に大切なことだと思っております。クラブチームに目を向け、さらなる普及発展拡大へ目指すことが重要です。現在の両毛クラブ人大会から北関東大会さらには関東大会へと発展させることがクラブ人チームへ大いなる希望を与えることにつながります。我々、野球に携わる者にとって軟式野球の普及発展は大きな課題です。小さな活動を一步一步進めることが課題解決の糸口でもあります。大きな夢を持ってこの活動を支援していきたいと思っております。

群馬県野球連盟 普及委員会 副委員長 根本 豊（クラブ担当）



楽しい野球を続けるために！

～平成23年度群馬県野球連盟少年野球指導者講習会～

野球少年が減少する最近、学童・少年野球指導者に成長段階に合わせた指導の大切さを理解してもらい、生涯スポーツとして学生野球から還暦野球・古希野球まで、怪我・故障のない身体で野球を楽しく続けられるとともに、野球を通して人間形成の上でも大切な時期にある少年たちに正しい技術とマナーの指導方法を習得してもらうことを目的として、今年もプロ野球ヤクルトスワローズOB、高仁、内山、悴田の3講師を迎え、安中、高崎、富岡、藤岡支部の指導者180名を予定して、平成23年11月13日(日)に高崎城南球場隣で開催します。

(普及委員会少年野球指導者講習会担当 飯塚章一 記)

投手グラブの取り扱いについて

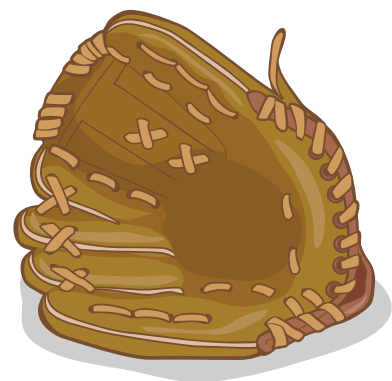
標記の件につきまして、日本アマチュア野球規則委員会において、2011年度より公認野球規則1.15の通り徹底することが確認されました。本件については本連盟においても同様に扱うことと致しますが、グラブの縫い糸の色、及び個人名の刺繍については次のとおりと致します。

・縫い糸の色について

「投手は、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけることはできない。ただし、縫い糸の色は、シルバー、白、灰色、光沢のある色、目立つ色以外の色であれば、特に制限を定めない。」

・個人名の刺繍について

「投手用のグラブに個人名の刺繍を入れる場合、その色はグラブ本体と同色とし、その場所は親指の付け根部分1ヶ所に限るものとする。なお、その大きさについては、最長でもグラブの親指部分の半分を超えないものとする。」



群馬県野球連盟公式ホームページ

<http://www1.ocn.ne.jp/~gsbb/>

機関誌担当

國裕・狩野

少年野球指導者講習会担当

飯塚・須永

クラブ人大会担当

根本・駒木

公認指導者講習会担当

和南城・酒井

事務局

和南城・駒木

編集後記

2011年度前期 たより県球連10号をお届けします。
「たより」に対し、ご意見ご感想をお寄せください。
また、誤字、脱字など、お許し願います